

第4回北九州市食育推進懇話会 議事録

1. 開催日時

令和5年10月27日(金) 18:30~20:00

2. 開催会場

北九州市役所 3階 大集会室

3. 出席者

(1) 構成員

穴井構成員、◎天本構成員、木村構成員、黒田構成員、中尾構成員、○長尾構成員
西村構成員、馬場構成員、原田構成員、藤崎構成員、安木構成員、山下構成員

(50 音順・敬称略、◎:座長、○:副座長)

(2) 行政

(事務局)保健福祉局、子ども家庭局、産業経済局、教育委員会

4. 次第

(1) 開会

(2) 議題

① 確認事項

第3回北九州市食育推進懇話会議事要旨

② 次期北九州市食育推進計画基素案について

③ 次期北九州市食育推進計画スローガン(案)について

④ その他

(3) 閉会

5. 議事

議題① 確認事項 第3回北九州市食育推進懇話会議事要旨

事務局 (資料を用いて説明)

座長

ただいま【議題1】、確認事項としまして、第3回北九州市食育推進懇話会議事要旨と、配布の構成員の皆様からいただきましたご意見とその回答について説明をしていただきましたが、ご質問等ございませんでしょうか。

前回の第3回の懇話会では、計画の基本方針の2つにぶら下がる具体的事業についてと、次期計画のスローガンについてご検討いただきました。いただきましたご意見等も参考に、事務局でスローガンをご検討いただいた上で、今回、提案をいただくことになっておりますので、後程よろしくお願いたします。

ぶら下がり事業につきましては、構成員の皆様、若い世代をターゲットとした取り組みについて

ご意見をいただくことができました。

また、新規検討事業の「食と健康ステーション」につきましても、具体的な食育推進の方法やデジタル化ですとか、そういったことをご提案くださりましてありがとうございました。

ご意見等特になければ議題 2 に進ませてください。

議題② 次期北九州市食育推進計画素案について

事務局（資料を用いて説明）

座長

北九州市食育推進計画素案について事務局より説明がありました。この素案に関しまして、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

概要版は、本市の次期食育推進計画の概要が一目でわかるようにまとめてございます。基本理念、体系、食育の課題、そして施策の展開が示されており、裏が関係者の役割となっております。1回見るだけでもわかりやすいようにということで、コンパクトにまとめてあります。

事務局から説明がありましたように、第1章は計画の基本的な考え方、第2章は課題です。本市の課題につきまして、最初にお配りしている膨大なデータの中から、14のデータとともに、本市の課題として設定しております。

間に専門用語の説明や、国や県のデータなども載せております。課題の展開の仕方としては、これでよろしいでしょうか。

次に第三次北九州市食育推進計画の指標の達成状況、そして現在の取り組み課題を5つ挙げております。そして、第3章ですが、食育推進計画の基本理念と計画体制ですけれども、先ほど事務局からご説明がありましたように、その対策の体系だとか、市民の姿、それから関係者と連携しての食育の推進について挙げられております。

次期計画を推進するための数値目標を16項目挙げてございます。今回、すべてのライフステージがターゲットにはなっていますが、重点ターゲットとしましては若い世代ということで、目標のうち、2番の「朝食を欠食する者の割合」、3番の「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日1回以上ほぼ毎日食べる割合」のところに、20歳以上の目標のほかに、20代から30代の数値目標を挙げております。私が気になりましたのは、14番の「食品の安全性に関する基礎的な知識があるものの割合」の指標に、対象者として30代男性と書いてございます。上の2番3番の指標では20代、30代と男女ともを含みますが、ここは女性を含みますと、やはり現状値が上がってくるということでしょうか。女性の方が色々な知識を持っている方が男性より、やや多いのかもしれないのですが、男性のみの指標について、構成員の皆様からご意見をいただきたいのですが。

原田構成員

例として、30代の既婚男性の場合、料理を作るっていう気持ちになかったりすることも多いのではないかな。だから材料を見ることがない。それで、食材の栄養価とかは見ないのではないかな。60歳を過ぎて退職してから、気持ちに余裕が出来たりして、料理してみようかな、となるのではないかな。でも、その人たちも、栄養価とか、原材料を確認するよりも、産地等、どこで作られているのかということの方をよく見ているのではないかなと思う。

座長

結婚されている方だけではなく、働き世代の男性たちが20代後半頃から、料理に興味を持つということは厳しいところだと思いますので、中には興味を持っておられる方や料理上手な方もおられますけども、忙し過ぎて、栄養成分表示を見ておられないし、安全性よりも美味しく食べる、ということが主になると思います。ありがとうございます。では、指標はそのままでよろしいですか。目標値として、対象に30歳代男性を挙げてそのまま進めていただきたいと思います。

第4章です。この食育推進の取り組みにつきまして、3つの基本方針を見ていただきましたが、31ページから「ライフステージに応じた多様な場での食育の推進」ということで、妊産婦や乳幼児、保育所(園)や幼稚園、認定こども園、学校。そして若い世代、働く世代、高齢期と、すべてのライフステージにまたがって、ぶら下がり事業を囲みの中に入れて、わかりやすく書いてございます。

今回、第3回で提案されておりました、トピックスが随所にはめ込まれておまして、前は19ほどのトピックスを入れることで事務局から提案がありましたけれども、例えば33ページ右側の保育所での食の体験という、トピックスが載っておりますが、それぞれのトピックスの右上に、農水省の食育のピクトグラム、これのどれが当てはまるかということも右上に載せてあります。このように進めてもよろしいですか。

トピックスが入っていると、とても見やすく、一般の方々も開いて読まれた時に、わかりやすい計画になっているなどと思っております。そして、35ページからの(2)の健康寿命の延伸につながる食育の推進なのですが、ここは同時進行で進めております「健康づくりプラン」とも同じような内容を作る必要もあるのだと思いますが、生活習慣病の発症、重症化予防のための食育。それから高齢期の低栄養予防、歯科保健活動における食育ということで進めてまいります。

次の39ページからは、基本方針Ⅱ「次世代へつなぐ社会環境の整備」ということで、社会全体とし、次世代につなげていきたい食を伝えていきたい、環境を整備していきたいという意味で一つ、食と環境の調和の推進。そして、食の安全・安心の推進。それから3番の社会全体で食育を推進する体制の整備ということで進めてまいります。

46ページからは基本方針のⅢ「様々な機会を活用した食育情報の発信」は、前の2つの基本方針に関わるものです。SNS、YouTube等のデジタル媒体を使って、どんどん食育を展開し進めて参るということを書いてございます。どうでしょうか。

山下構成員

文章で読むのもいいのですが、私が最初に思ったのが、45ページに「きたきゅう健康づくり応援店」に関して、二次元コードを載せて、どんなところがあるのだろうと(スマホをかざすと)見えたら、いいなと思っていて、随所、随所で、二次元コードでも見ることができるようなものが入っていると、また違うものになるのかな。ダイジェスト版もそうなのですが、そういうのも含めて掲載してくれると、若い人はもっと見てくれるのではないかなというふうに感じました。

天本座長

確かに、二次元コードなどで「見える化」することも大事だと思いますので、ご検討いただければと思います。

西村構成員

ピクトグラムの一覧は一番裏面にあったら見やすいのかなと感じました。

33ページの保育園での食の体験、この子どもたちの顔について白抜きするのだったらもう載せなくてもよいのでは。他の写真で、消している子どもや大人がいないので、これがすごく気になります。

天本座長

事務局の方から説明いただきたい。

事務局

印刷の時には専門業者に依頼し、白抜きはなくて、ぼかしたり、違和感のないように仕上げたいと思っております。

天本座長

食育のピクトグラムはどうですか。

事務局

冊子のページ数の関係で、1ページ後になってしまうというのがありますが、調整をしたいと思っています。

穴井構成員

これは、原稿段階という認識ですけれど、最終的に印刷する前にデザインしたものは見れるのでしょうか。

事務局

今回の第4回懇話会の後で、パブリックコメントを実施しまして、その結果を受けて最終案を作成し、第5回の懇話会で皆様方にお示ししたいと考えております。でき上がった冊子につきましては、その後、ご送付をさせていただくような形になるかと思っております。

西村構成員

ライフステージに応じたいろんな項目があって、わかりやすいと思いました。36、37ページの流れなのですが、健康寿命の延伸につながる食育の推進で、③歯科保健の推進の「よく噛んで食べましょう」で一旦流れが終わっていると思います。その後37ページに続くトピックス「バランスのよい献立の紹介」は全ライフステージの方に対する内容だと思うので、この区切りのところ何か項目や文言を入れた方がいいのではないかというふうに思いました。

天本座長

ありがとうございます。36、37ページで、歯科保健につながっているように見えます。確かに右側37ページの「バランスの良い献立の紹介」と、この「野菜 350g 以上ってどのくらい」は歯科保健に関係ありません。

事務局

ありがとうございました。工夫をさせていただきたいと思います。

穴井構成員

今年度、学校給食食材の審査担当(=物資選定委員)をさせていただいて、ちょうど今日午後にあったのですが、小中学校の12月・1月の食材の審査です。10数人で、きちんと食材を吟味して、味見して、チェックしてから給食に実際に使用されるものとして認められているという流れがあることを私も知らなかったのですが、そういったこととかも伝えていければというのと、給食の献立の中で、一部書いてあるのですが、行事食とかもちろんありますし、レシピコンクールで中学生が考えたレシピを載せたりもしているので、そういった取り組みも載せていただければと思います。給食のメニューも、栄養士の先生がすごく考えて作っていただいているというのはありますので。保育園だけでなく学校給食にも触れていただければと思いました。

事務局

学校保健課でございます。今、ご紹介いただきましたけれども、学校給食の献立の作成にあたりましては、教育委員会で案を策定しました後に、学校の先生方であるとか、PTA 協議会の方々、医師会の方からご推薦いただいたドクター等にもご参加いただきまして、その献立のバランスでありますとか、食材、メニューの組み合わせなどを幅広くご意見をいただくようにしております。

それと先ほど委員の方からご紹介ございましたは、献立の作成にあたりましては、年に1回、小中学生を対象にしたレシピコンクールというのをやっておりまして、ちょうど今、レシピ案をいただいて、審査を進めておるところでございます。優秀賞等については表彰するとともに、次年度の献立の中に取り入れていくなどを行っております。そのような取り組みを順次進めておりまして、資料の中にもご紹介いたしますが、資料の47ページに、学校給食献立レシピコンクールの開催を、挙げさせていただいているところでございます。構成員からご紹介いただきましたような様々な学校給食を実施するにあたっての、皆様からのご理解ご協力や、或いは子供たちの積極的な参加など、幅広く学校給食で取り入れておりますので、もし可能であれば、そういった取り組みを、一部だけでも、ご紹介していきたいと思っております。以上でございます。

座長

ありがとうございました。この素案冊子に関しましてはページ数の都合もあるのだと思います。教育委員会のホームページで、学校給食の献立の案内だとか、いろんなことを載っております。確かに、この冊子に少しだけ載せていただいて「学校給食では、これだけの取り組みをしている。詳細は、教育委員会のホームページ等でご覧ください」ということを記載いただければ、北九州市としても取り組んでいることがわかる事業も書いてございますので、ぜひお願いします。たくさん学校給食でも、それから保育所給食においても、食育をしてくださっていますので、そこを載せていけたらと思います。

長尾構成員

今のところですが、私も、この②の、保育所(園)・幼稚園・認定こども園・学校等における食育のところについて、写真の件が先ほど出ましたけれども、学校給食のことも、ここに何かの形で、も

う少しわかりやすい具体的なものを出した方がいいのではないかと感じております。

中尾構成員

「小中学校の給食」として(項目を)立ち上げていただいて、写真を入れてもらったら宣伝になるかなと思ったところです。レシピコンクールで入賞し採用されると、子供たちもとても喜びます。応募も増えています。今は小学校6年生もレシピコンクールに申し込み、参加ができるようになっていて、その献立も給食に取り入れていて、そういうところからも食育が進められていけたらいいなと思います。

座長

学校における食育は、②番、保育所(園)・幼稚園、認定こども園・学校等における食育っていうところですね。ここで、またちょっと二つに分けるとかですね。

事務局

トピックスというような形で、レシピコンクールや物資の審査等のご紹介と、二次元コードを付けて、より詳しい内容に飛べるような形に工夫をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

天本座長

そうですね。小中学校、思春期にも入ってきている世代ですので、若い世代に含まれますから、よろしく願いいたします。

西村構成員

35ページの①の、生活習慣病の発症・重症化のための食育では、素案では前半も後半も啓発を行うというような内容が中心となっていますが、概要版で見ると、生活習慣病予防・重症化予防の取組は、健診結果に基づく保健指導及び食生活に関する相談となっています。概要版は相談に重きを置いて、素案の方は啓発に重きを置いているので、概要版の方も啓発をしていくとした方がいいのかなと思います。

事務局

ありがとうございます。ご指摘の通り、生活習慣病の予防に関しては、やはり健診結果に基づいた保健指導であるとか食生活相談、取り組みを行っておりますので、素案にもその内容を、前半少し生活習慣病のことを詳しく書いておりますので、そこに続けるような形で入れさせていただいて、逆に概要版の方には正しい知識の普及啓発のところも少し入れるような形で、概要版と素案の内容が沿うような形で少し修正を加えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

穴井構成員

これはもしかしたら今回の中に入れるというよりは、まずは現状把握をしなければいけないことなのかもしれないのですが、わりと給食協会とかPTAの会議の中で話題に上がるのが中学生の女子の残食が非常に多いということです。現場の皆さんは把握されていると思うのですが、やはり「食べない」、きちんと栄養バランスを考えて作られているにもかかわらず、何か風潮としてそういうのが非常にある。やはり、先生方も工夫されているとっておられるのですが、中学生の時に何か食

べないということがあると、結局そのあと20年、30年後も、食に対しての意識が下がってしまうのではないかなと思いますので、今から何か対策をしていかないといけない。現状把握をしなきゃいけないことなのかとは思いますが。その辺りも、この計画の中に入れるということではないのかもしれないのですが、現場では問題になっていると聞いているので、食育という観点で何か対策ができたらいかなんかというのは考えています。

座長

現状やはり、残食は多いのでしょうか。

事務局

教育委員会でございます。残食率の状況についてということで、少しちょっとざっくりとしたお話なのですが、主食と副食というのは大きく分けてございます。特に、コロナ前の令和元年までの状況を見ますと、コロナ前と比べて、コロナ後が、少し残食率が上がっているというのは数字的に実態としてあります。ただ、残食が出る理由が幾つか考えられまして、物資の調達に際し、直前での食数変更ができないというのがありまして、当日、例えばコロナだったりインフルエンザだったりとかいうことで欠席者が出た場合は、そのままダイレクトに残食に繋がってしまうというのが経緯としてあります。

問題なのは構成員からご紹介ありました、提供された給食をあえて残す児童生徒のところだろうと思います。給食ではなくて、学校保健安全法上の子どもたちの、肥満と痩身、どちらかという食べない方ですので痩身の方に関わるのですけれども、学校保健統計等で見ますと、やはり一定数、過度に、痩せている子どもたちがいて、いわゆる若いころからの過剰なダイエットをしていると考えられる、特に女子生徒がかなりいるというのも、現状として把握しております。痩身の程度によりますけれども、いわゆる中等度痩せと言われる生徒が複数いるというのを把握しております。こういった子どもさん方については、保護者の方と連携いたしまして、きちんとした食生活習慣の定着、あと、医療的な要素というのもある子どもさん方もいらっしゃる、そういった子どもさんについては、医療機関の受診等をお願いしたりと、なるべく早く、学校保健の健康管理の中で取り組むべき課題については、学校と家庭と連携して取り組んでおります。

話が戻りまして、残食の件につきましては、やはりおいしい給食を提供するというのも、残食を減らしていく重要な取り組みの一つと考えております。なので、先ほどのように給食の残食というのはいろんな理由が考えられるのですけれども、ご紹介いただいたような健康被害、或いは健康上の課題をもたらすようなものについては、我々としてもなるべく早めに把握して、保護者、ご家庭と連携しながら、しっかりとした食生活習慣の定着に努めていく必要があると考えております。以上でございます。

座長

今、事務局から説明ございましたように、穴井構成員がおっしゃってくださっていることは本当に大事なことです。確かに思春期に入ってまいりますと特に女子は中学校給食の場面でも、どうしても、情緒不安定になりますし、異性との問題などもあって、例えば、先生たちから多めに盛られると困るとか、そういったことも言われていますので、やっぱり女子としては、たっぷりと給食をいただくということができない子たちもいるのだらうと思います。

その点まで含めるとちょっとこの食育推進計画に上げるのは難しいのですが、今事務局でお

しゃったように、北九州市は不健康な痩せも、極端に言うと、思春期痩せ症の、特に女子が一定数いるのだと思います。逆に肥満児も多いということも聞いております。そこまで内容が増えますとちょっと細かいことになってきますので、学校保健の方にお任せいたしまして、学校給食取組のことはぜひ入れさせていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

今後も、しっかりと食の点から、こどもたちの心と体を育てていきたいなと思っております。

議題③ 次期北九州市食育推進計画スローガン(案)について

座長

次期北九州市食育推進計画スローガンにつきまして、それでは事務局の方から説明をお願いします。

事務局 (資料を用いて説明)

座長

次期北九州市食育推進計画のスローガンについて、第3回懇話会までに構成員の皆様からご意見いただきまして、事務局の方で、ご検討いただいた上で、資料4で提案されております。皆様いかがでしょうか。

これまで食育推進計画のスローガンについては、食育推進情報にも活用していきまして、媒体等への掲載を進めておりました。

もう一つ、ロゴにつきましてもスローガンとあわせて市民の目と心にパツと響くように作成しようとしております。現在のスマッキーというキャラクターロゴでないものができ上がる予定ではございます。そこも含めまして、よろしいでしょうか。ご意見いただきましたらと思います。

スローガンは、「食を愛せ、未来を愛せ。北九州と。」というスローガンになっております。現計画とかなり変わりましたが、構成員の皆様いかがでしょうか。重点ターゲットの若い世代の心をつかむスローガンかなと私は思っておりますが。まず若い世代に、ご意見をいただければ。

馬場構成員

市が作るスローガンには、「何とかしよう」というイメージがあったのですが、これは「食べかたは生きかただ」とイメージ的にスタイリッシュで、若い世代の興味を引きそうだと思います。

天本座長

スタイリッシュですね。若い世代の心を掴むスローガンということで、私がちょっと気になっておりますのは、成長期の世代に関わる黒田構成員、木村構成員、ご意見をいただければ。

黒田構成員

この前の会議で、スローガンは、やっぱりちょっと強い意志を持って打ち出す形がよいという話になったと思います。その基本線からいけば「食べかたは生きかただ」というのは、かなりイメージが強い感じで、「食を愛せ、未来を愛せ、北九州と。」っていうのは、メッセージ性がすごく込められていると思います。ただこれを子どもたちに噛み砕いて伝えようってなった時は、ずっと難しく、左のページの青い四角の中も読ませていただくとして、すごくすてきな、詩のような言葉でCMとかでも流れてもかっこい

いなくてという感じですけど、「あなたが愛している未来がある、だから食を愛そう北九州と。」というのは、子どもにどうやって伝えるか。これはスローガンとしてあって、何か噛み砕く部分があったらいいなあって思ったところですね。

木村構成員

確かに力強いいいなと思うのですが、やはり、私たちがいつも接している子どものことを考えると、やはりこれをどういうふうに子どもに伝えていこうかなど。「生きかた」となると、小さい子にはそれ自体、認識が難しいのでその点がちょっと。小さい子には難しいが、私達にはよい。子どもたちに伝えるときにどういうメッセージで伝えていくかということを考えれば。

黒田構成員

これに解説みたいなのがついていて、教えられるようになっていけるとよいかと。

座長

確かに、子どもたちにこれをどう伝えたらいいかと言われるすと、正直、現計画の「北九州の豊かな未来に向けて 食べて健康!みんなで実践!」というスローガンに関しましても、子どもたちには、多分直接伝えることはなかったと思います。今回のこの食育推進計画を展開していく中でのスローガンで、ということなので、確かにコンセプトもマニフェストに関しましても、今事務局の方から読み上げていただいた、この「食には愛が詰まっている」ということも、YouTubeとかで流すのはかっこいいなどは思うのですが、これを、確かに子どもたち版の解説があったりすればと思いますが。

事務局

ありがとうございます。スローガンにつきましては、パッと見ていただくための掴みのようなものかなと思っております。ただやはり、これだけでは十分にわからないところがありますので、説明を加えていくことも必要かと思っております。子ども向けの解説とのご意見や、四角囲みのところのいろいろなバージョンを作って広めるような形にするようなご意見もいただきましたので、ぜひ参考にさせていただきますきたいと思います。

山下構成員

私はこれを見たときに、上から目線だなと思ったり。スローガンなのでこれはこれでいいかもわからないのですが、「食を愛せ」ではなくて、そこを「愛し」とか、やわらかくできないのかなと思いました。キャッチコピーのところで少しやわらかめに方言が入ったような、よく「好きっちゃ北九州」みたいな。なんかそういったのでキャッチコピーができないのかな、横文字もいいのですが何となく難しいかなと思いました。

長尾構成員

実はこの「食べかたは生きかただ」というのは、すごくすっきりと入ってきたのですね。今までも「食べることは生きること」と言ってお話することが多かったのですが、生きていくことの基本はやっぱり食べることっていうふうに考えています。今ご意見があったように、何かいろんな方に親んでもらえるという意味では、少し堅いなあという印象を受けました。

座長

今の山下構成員と長尾構成員からのご意見を、ターゲットの高齢者の世代ですね。高齢者の方々がどう考えられるかっていうのも含めてだと思っております。どうでしょうか。まだ検討されていないのだと思うのですが、健康づくりのプランの方との兼ね合いもありますので。確かに「食を愛せ」ってなると上からに感じ、「愛し」の方が柔らかいと言われたらそうです。

事務局

例えば「愛そう」とかですね。「未来を愛そう。」。それとキャッチコピーにつきましては、例えば今おっしゃったように、年代別や、場面に応じて作ることも可能で、その対象者に合わせてこのスローガンと組み合わせるようなことも考えております。「LOVE AND EAT」は、健康づくり応援店等を想定しておりましたが、方言を入れるというご意見もありましたので、子ども向けや高齢者向けのキャッチコピーも少し考えてみたらどうかというふうには考えております。

原田構成員

キャッチコピーですけど、どうしても「ラブ&ピース」という方に行ってしまう。同様なコピーはいろいろ作られていますが、それをそのまま真似したような感じなので、どうかなと思います。

事務局

スローガンもキャッチコピーも普段使われているような言葉の組み合わせです。皆さん馴染みがあるような言葉の組み合わせってものが、スローガンとかキャッチコピーになるので、どこかで聞いたことあるなっていう感じはどの言葉にもあるとは思いますが。ただ、その出し方にもよりますが、「LOVE AND EAT」について、やはり、他の出し方がいいのであれば例えば、ピースって思われがちであれば EAT をすごく大きな字で作り変えてみるとかの出し方もあるかなと。

安木構成員

個人的に思うことですが、多分どの団体にも納得してもらえるスローガンは、多分出てこないの、特にどこの年代ターゲットにしたいかを決めてしまって、その年代に合わせて、1回スローガンを決めた方が早いです。

事務局

一応これは若い世代とかですね、就労世代をメインターゲットに作っていただいたスローガンにはなるのですが、やはりキャッチコピーと組み合わせると、若い世代とか子どもさんとか高齢者も惹きつけるような形で使っていければなというふうに思っています。ただ、「食べかたは 生かただ」は、全体通して言えることではあるのかなというふうに思っております。

座長

そうですね。どのライフステージにも納得していただかないといけないというのは、本当に難しいことだと思いますので、今回、重点ターゲットである、就労世代と若い世代へのスローガンという事で、そこに絞っていただいて、今事務局から言っていただきましたようにして、それぞれのライフステージ

に合わせた形で活用していくようにしていただければありがたいです。

それではスローガンは、「食べかたは 生きかただ 食を愛せ、未来を愛せ。北九州と。」ということで、キャッチコピーは別に作るということで、進めていただきたいと思います。

議事 その他

座長

前回の懇話会で郷土料理についてのご意見がございました。

郷土料理などの食文化の掘り起しに関する調査をしているということで、今回その調査報告書のうちの一部を参考資料として配布していただいております。平成17年の報告書ということで18年も前のものになります。見ていただいて、食育の活動等をされる際にご紹介いただければと思っています。レシピについては配布しておりませんが、事務局でございますので、必要時にはおっしゃってください。皆様ご意見等ございませんでしょうか。

他にございませんでしたら、第4回北九州市食育推進懇話会をこれで終了します。

閉会